

ふくおか若者会議からの報告について

1. 会議の実施状況

- 第1回会議は、7月12日(日)に福岡市で開催。

開催場所 県庁

内容 ・メンバー同士の顔合わせ
・ワークショップ「5年後もこんな福岡県はいやだ」
(若者が日頃感じている課題や将来への不安を意見交換)

- 第2回会議は、8月9日(日)に久留米市で開催。

開催場所 久留米大学

内容 ・ワークショップ「5年後、こんな福岡県だったら良いな」
(第1回会議で出た意見を踏まえ、若者が決めた6分野について、福岡県の将来像と必要な取組について自由に意見交換)
・代表者2名を投票により決定
学生代表:尾上 朝陽さん、社会人代表:三木 智弘さん

【第2回若者会議で若者が選定した6分野】

	分野
1	教育の充実と若者の挑戦支援
2	農林水産業の稼ぐ力の強化と持続的成長の実現
3	ダイバーシティの推進と共生社会の実現
4	防災・減災と県土強靱化
5	移住・定住の促進と地域コミュニティの醸成
6	中小企業の稼ぐ力と経営力の強化

2. 今後の予定

- 第3回若者会議を10月18日(日)に北九州市で開催予定。

- 意見のとりまとめと総合計画への反映に向けた整理を行う。また若者自身による理想の福岡県に向けてのアクションを議論していただく予定。

ふくおか若者会議

高校生から社会人まで、
福岡県の将来について真剣対話！

「ふくおか若者会議」 活発な議論が進んでいます

ふくおか若者会議とは？

次期総合計画に若者世代の率直な意見や日頃の実感を反映させるため、若者の視点から「福岡県の将来像」や取り組むべき施策の方向性について議論する「ふくおか若者会議」を設置しました。

総勢30名の若者が3日間にわたり真剣対話する会議体です。

実施場所・日時・参加人数

第2回会議は、8月9日(日)に久留米大学「つながるめ」で開催されました(昼食をはさんで12時から15時半まで実施)。
前回に引き続き、県内各地から集まった27名の若者が参加しました。

プログラムの概要

高良山竹林環境研究所の渡辺さんから、竹林整備やメンマづくり、地域の拠点のお話をいただき、開催地である久留米への理解を深めました。久留米で人気のお弁当・久留米産メンマを食べながら、グループで交流しました。
ランチの後は、前回の「5年後もこんな福岡県だったら嫌だ」で出た意見を踏まえながら、各グループで議論するテーマを選定。ワールドカフェ方式で、最大3つのテーマに対して、「5年後、こんな福岡県だったら良いな」という意見を出し合いました。出来上がった模造紙の内容を参照し、各テーマの対話を共有しました。
最後に、福岡県総合計画審議会に出席する代表者2名(学生1名、社会人1名)を、投票によって選出しました。



ワールドカフェ
「5年後、こんな福岡県だったら良いな」

ワールドカフェとは、少人数のグループで、参加者がテーブルを移動しながら自由に意見交換を行う対話手法です。今回は選ばれた6つのテーマに対し、「5年後、こんな福岡県だったら良いな」を考える、計3回の対話を実施しました。3回とも違うテーブルに参加するのはもちろん、最後に同じテーマに帰ってきてもよし、参加者たちが自由に対話をしました。



こんな福岡県が実現してほしい、そのためにはこんな意識が醸成されたら、こんな取組があったら、と自由に意見を出し合いました。出された付箋を見て、新たな発想が生まれたり、自分の経験と結びつく視点が出てきたり、様々な意見が共有されました。

テーマ	選んだテーマにおける主な意見(抜粋)
教育の充実と若者の挑戦支援	育つ地域や個人による教育機会の差 ・家庭環境や地域に左右されない平等な教育機会を確保する。 若者の活躍の推進 ・部活動の地域移行でこどもの居場所が失われる一方、学生の活躍できる場が少ない。 ・学生のスキルを地域や企業(商品企画など)とマッチングさせる仕組みを構築する。 「正解」を求める教育からの脱却とマインドセットの変革 ・失敗を許容して、「正解を作る力」を育む教育環境が必要。 ・マイノリティや困難を抱える方のポジティブな側面を伸ばす教育を推進する。 若者が挑戦できる社会の実現 ・学校の枠組みを超え、地域全体で若者の挑戦を応援し合うイノベーティブな地域コミュニティがほしい。
農林水産業の稼ぐ力の強化と持続的成長の実現	若者を中心とした担い手の確保・育成 ・第1次産業が若者にとって魅力的な職業になり、農林水産業を学べる学校や体験活動を充実してほしい。 県民自身が地域の特産品を知ることと行動変容 ・伝統農法を知る、地産地消の促進など、消費者に「福岡県産」が根付くことが必要。 獣害被害の抑制 ・猟友会同士、行政等との連携強化や、ジビエの流通を目指していくことが必要。 農林水産業＝稼げる産業へ ・あまおう、八女茶、有明海の海苔、明太子を世界へ発信し、福岡ブランドを確立する。
ダイバーシティの推進と共生社会の実現	「ダイバーシティ」の定義可能性 ・適切な日本語に訳せないため、各自が曖昧なイメージで理解している。 ・個人の思考の差はあるが、「文化の違い」と捉えることもでき、情報共有が解決の糸口になる可能性がある。 「AとBのグラデーションの真ん中」が大事ではとの問い ・絶対的な解決はないとの視点に立ち、思考し続ける事が大事。 個別支援から交流の場づくりへのシフト ・「特定の属性をターゲットにした支援」から、「異なる属性の人々が自然と関わりを持てる『場』や『機会』を支える」という支援へシフトしていく必要がある。
防災・減災と県土強靱化	地域の防災力を高める仕組みづくり ・災害時に地域で助け合うためには、平時のコミュニケーションの促進と防災訓練の強化が重要である。 ・避難時に助けを必要とする人を地域ごとに把握する仕組みが必要。 県民ひとりひとりの防災意識の醸成 ・日頃から防災マップ、避難経路等を各人が意識する。 ・個人や企業の適切な備蓄の管理を推進する。 誰もが安心して避難・生活できる避難所づくり ・福祉避難所やペット同伴可、アレルギー対応可の避難所などを充実させる。
移住・定住の促進と地域コミュニティの醸成	福岡らしい文化と暮らしの魅力の継承 ・「なんばしよっと」と声をかけられるような、人とのつながりが残っていてほしい。 ・地域の伝統行事が継続する仕組みや、地域の文化との触れあいの機会を創出する。 福岡にUターン・移住者の増加 ・公民館や役所など、地域へ来た人が最初に立ち寄れる「地域の玄関」がある。 ・地域の居場所や移住先を紹介してくれる「地域マスター」がいる。 福岡を離れた後も続く地域とのつながり ・県外へ出て、戻りたくなる地域であってほしいので、地域の行事や活動に関わり続けることができる取組を推進してほしい。 多世代が無理なくつながれるコミュニティ ・子どもから高齢者まで幅広い世代が集まり、気軽に挨拶したりできる場所があるとよい。 ・銭湯やドッグランなど、同じ目的を持つ人が緩やかに集まれる場所がある。
中小企業の稼ぐ力と経営力の強化	中小事業者(小売・飲食業・サービス・製造)の魅力の維持 ・オンリーワンの店で昔ながらの味を楽しめたり、地域に誇れる会社が残っていてほしい。 若者による積極的な中小企業選択 ・若者は「大手企業が正解・安全」という考え方をやめ、第一志望が中小企業ってカッコいいというマインドを持つ。 ・中小企業が若い人たちの活躍を発信することで、若者が中小企業を選択するようになる。 後継者の育成と挑戦する風土をつくる仕組 ・事業承継のために中小企業に若者が飛び込んで挑戦することを評価する風土や、その挑戦を応援する(資金支援、伴走支援プログラム等)仕組を作る必要がある。 中小企業の積極的な海外進出 ・中小企業の持つ技術や製品を海外市場進出につなげる仕組みづくりを推進してほしい。